インターナショナルスクールと日本の学校の比較

松本　愛

今日、日本にはたくさんの外国人家族が住んでおり、その子供が通うことができるインターナショナルスクールも増えてきている。そこで、インターナショナルスクールと日本の学校の相違点、インターナショナルスクールと日本の学校の入学条件、インターナショナルスクールと日本の学校の学校行事について、考察してみる。

はじめに、北海道にあるインターナショナルスクールと日本の公立学校(道内の中高)を比較した上での相違点についてである。インターナショナルスクールは多様な国籍・民族のための教育施設で、教師も生徒も様々な国籍の人々がいる。その為、授業は基本的に英語で行われている。また、インターナショナルスクールは学費が高く、一般的な教材費などの特別な出費を除いた学費だけでおよそ年間170万くらいかかる。それに対して、私が調べた日本の中等・高等学校は、生徒も教師も日本国籍の人しかいなかった（ALTを除く）。そのことにより、英語の授業以外は日本語で行われる。また、日本の学校(公立)は、インターナショナルスクールに比べて学費が非常に安い。

次に、インターナショナルスクールと日本の学校の入学条件について考察する。インターナショナルスクールの入学条件は第一条件として、「英語力」が問われる。この英語力は入学時に英語の面接によって判断される。また、保護者(少なくとも父母のどちらか)がネイティブスピーカー並みの英語力がないと、入学を許可されない。日本の学校(高校)の入学条件は、中学校3年間の成績・ランクに合わせて、入学試験日当日のテストの点数による。近年では、裁量問題として、それぞれの学校独自の問題も出題されることが多くなってきている。また、推薦入試の場合には筆記試験はなく、志望動機などを聞かれる面接、そして小論文によって決まる。

最後に学校行事についてである。インターナショナルスクールと日本の学校共に、それぞれの学年にたくさんの行事が計画されているので、いくつか取り上げる。“Kyoto trip”は日本の中学3年の終わり頃に京都へ旅行に行くことで、日本の文化・伝統を学ぶことを目的としており、大阪や神戸も旅行のコースに入っている。この行事は日本の修学旅行と似ている。“Japanese culture week”は、伝統的な日本のドレス、ダンス、音楽、食べ物、ゲームなどを通して日本の文化を学ぶという行事で、1週間ほど開催される。日本の学校ではこのような行事は行われないと考えたが、劇や器楽演奏などを披露する学芸会と少し似ていると思った。“Fall festival”は日本の学校でいう学校祭と似ているようだ。名前からわかるように秋に開催される。これは、毎年何百人も近隣の人々が訪れているようで、学生たちは世界の料理を作ったり、ゲームをしたりするようだ。

以上のことより、インターナショナルスクールと日本の学校を比較したところ、学校行事について似ている点もあったが、入学条件や学費などの大きく違っている点もあった。インターナショナルスクールの生徒と教師は多様な国籍・民族がいるのにも関わらず、学校行事を通して積極的に日本の伝統や文化、習慣を学ぼうとしている姿勢が見られる。これらの行事を通して、日本と他の国々の文化の違いなどをお互い理解し合って親交がもっと深くなることを願う。また、このような取り組みを交換留学制度などによって私たちも行えば、今後の国際交流に活かすことができると思う。しかし、お互いのすべての文化や伝統の違いが理解できるとは限らず、難しい部分も出てくるだろう。そのような課題をどう克服していくかを今後も継続して考えていきたい。そして、インターナショナルスクールでの基本言語は英語であるから、第2言語として英語を話したり学んだりする人が増え、将来、世界の共通言語が英語になっていくのではないかと思う。

（指導教員　中村　敦志）